

## 17 《岩窟の聖母》 ロンドン版ルーブル版

どちらが先に描かれたのか。

2019

真鍋友範



《第三次ロンドン版》



《ルーブル版》

\* どちらが先に描かれたのか。

この謎は、描かれた画面の詳細な検討から判明した【ルーブル版が弟子達によって描かれたという結論】と、ある仮説により説明可能だ。

結論は、【ロンドン版が先で、ルーブル版は後だ。】

より更に詳しく申し上げるなら、制作順は以下のとおり。

- 1 第一次ロンドン版 1483-1490 レオナルドが描いた作品
- 2 ルーブル版 1503-1506 弟子アンブロジーオ達が描いた代替作品
- 3 第二次ロンドン版 1506-1508 アンブロジーオが裁判後に加筆した作品
- 4 第三次ロンドン版 17世紀 名も知れぬ画家による加筆修正の作品

\* 1483 は、信心会から発注された年

\* 1490 は、レオナルドとアンブロジーオが最初に裁判を申し立てた年

\* 1503 は、二度目の裁判を申し立てた年

\* 1506 は、二度目の裁判が結審した年

\* 1508 は、修正した絵画の画料が支払われた年

~~~~~

両作品に関わる情報を一切考慮に入れないで、純粹に両作品をレオナルド作品として見た場合、恐らく全体印象として、ルーブル版の方にレオナルドの初期の特徴が観られる事から、【先にルーブル版が描かれ、次がロンドン版だ】と考える多数説になるのかもしれない。

しかし、ルーブル版の内容を調べてみると、前提条件である両作品はレオナルドによって描かれたという事実疑いが生じるのだ。

(詳しくは、《岩窟の聖母》秘められた表現と新制作順仮説 参照)

先ずは最初に描かれたのは《ロンドン版》しか有り得ないという理由だ。

それは、信心会からの受け取り拒否の理由だ。

\* 画面が暗い→ 明らかに《ロンドン版》の特徴だ。

\* イエスがどこか解らない→ 《ロンドン版》ではイエスを示す指差し動作がない。

\* 聖人の雰囲気が無い(図像が無い) → 《ルーブル》版には無いが、《ロンドン版》も最初の描画時点では全ての図像が無かった為、聖人の雰囲気は無かった。

つまり、信心会側の不満要素の全てを満たすのは《ロンドン版》なのだ。

では、1483年の《聖母無原罪御宿り信心会》からの注文以前に《ルーブル版》が既にあったという根拠はあるのだろうか。

英国美術史家のある人は、この説を採っているようだが、誤りだろう。

中央祭壇画は大きいのだ。板絵としては容易に持ち運べないサイズなのだ。

しかも注文前に注文を予測して描く事など出来ないし、注文が無ければ画材や材料費の無駄だ。当時の絵の具は高価であったのだ。【完成作のサンプルなら、当然デッサンで提示した筈だ。】



《ロンドン版》



《ルーブル版》

《ルーブル版》は、弟子であり共同契約者であったアンブロジーオ・デ・プレディスが、レオナルドがミラノを去った後、アンブロジーオが二度目の裁判を申し立てた1503年から裁判の結審した1506年の間に、【アンブロジーオ達からの仲裁依頼を受けたルイ12世に依頼され代替として描いた作品】であると推定できるからだ。

上記は（あくまで仮説ではあるが、これによりその後の流れが説明可能となる。）

まず、この推測が掲げられた背景がある。

それは、ルーブル版は、レオナルド工房作として世に発表されていても、描いたのはレオナルド留守のミラノに留まっていた弟子が描いた作品であったという検討結果だ。

つまり、【《ルーブル版》には、レオナルドとは考えられない特徴が数多くある】のだ。

【デッサンが著しく劣っている点】やレオナルドの意識した【オリジナルの構図が崩れている】など、数多くのレオナルドより劣っている点が見受けられる。（詳しくは、ウェブ論文《岩窟の聖母》2017真鍋友範 参照）

特に、【最初に描かれたのではないとする最大の根拠は、その表現様式にある。】

《ルーブル版》は、【レオナルドの初期の特徴である細部迄の描き込みと、スフマート技法というレオナルド中期の技法が混在している。】このような描き方

を、レオナルド自身には絶対不可能だが、弟子ならば可能なのだ。

何故なら、【弟子は、レオナルド作品の過去から描かれた当時迄のあらゆる技法を混在させて一枚の絵画に凝縮させることが可能な立場なのだ。】

美術史家によって描かれた時期に関する推定が大きく異なる混乱の理由はここにある。美術史家がいくらがんばっても、双方をレオナルド直筆と判定している限り、その制作時期の特定は永遠に不可能なのだ。

ひとつ指摘できる点は、【アンブロジーオ達レオナルドの弟子は、ジョルジョーネの弟子ティツィアーノ程には有能でなかった点だ。】

アンブロジーオ達には、師匠のロンドン版を、ルネサンス期絵画の一般的な特徴である【全体に淡い光があたる画面】として模写しているが、師匠がロンドン版で行った先進的な光と陰による【明暗法】での再現は出来なかったし、師匠が苦勞して表現した【自然空間での視線誘導構図】<sup>1</sup>を再現する事も出来ず、原作の構図を崩してしまっているのだ。

しかも、ルイ12世の指示があったと推定するのだが、《天使の指差す手》と《水辺を示す水平に連なる岩》が描かれ、画面がレオナルドの意図した【旧約聖書外典の場面】から、【新約聖書キリストの洗礼場面】に変更されている。

これでは、レオナルドも、信心会も納得できなかった筈だ。なぜなら、レオナルドの作画意図を台無しにするだけでなく、彼の信念である良い画家の条件にも反していたのだ。

また、《ルーブル版》の画面内には【聖母の左手によるイエスへの庇護の元にいる幼児イエス】と、【天使の指差す方向の幼児イエス】という2名のイエスが存在している。

このような、聖書の記述に反する表現は、レオナルドにも、《聖母無原罪御宿り信心会》にも、当時の《聖母無原罪御宿り信心会》のカトリック教徒にも受け入れ難いものであったに違いないのだ。

仮に、天使の指差す手が、当時のルイ12世の指示ではなく、後年になって名前の知れぬ画家によって加筆されたと仮定しても、【幼児イエスが助言者ヨハネを祝福する表現】というおかしな表現である事実は変わらず、【新約聖書の洗

---

<sup>1</sup> 検索ワード：《レオナルドの描いた二枚の視線誘導実験絵画》2019 参照

礼場面の記述と相反する場面】となり、やはり納得し難い場面であることにかわり無いのだ。

《聖母無原罪御宿り信心会》には受け入れられないもう一つの理由がある。

何故なら、レオナルドによって採択された、旧約聖書外典という新約聖書を根拠としない画題が、新約聖書の《キリストの洗礼場面》に改作されたことで、【無原罪である聖母が登場しない、聖母とは無関係の聖書場面になった点】だ。

結局、両者から拒絶される内容の【ルール版】は、ルイ12世の手元に残り、やがてルール美術館に移ったのだ。ルイ12世が黒幕となり代理人に指示した可能性が残るものの、やはりルイ12世の指示と推定されるのだ。

その後、1506年の2度目の裁判の裁定結果、作品は未完成であることから、加筆修正となったが、レオナルドは自ら加筆することなく、弟子で共同契約者であったアンブロジーオに【光輪の加筆】を依頼した。レオナルドの描いた作品である【ロンドン版】は、加筆されたことで完成作として信心会側に納められたのだった。

この経緯は、アンブロジーオからレオナルドへの、信心会からの描画料受諾許可を求める書簡として残っている。(レオナルド自身への描画料は、第一次裁判が始まる前にほぼ支払いが完了していた。)

この時点で加筆された部分は、【光輪のみ】であったとする根拠がある。

現在の【ロンドン版】には、【向かって左側の幼児に、洗礼者ヨハネを象徴する十字の杖と革衣が描かれている】が、これを1503-06年に描く事は許可されなかった筈だ。何故なら、レオナルドは旧約聖書外典に登場する預言者ダビデまたはイザヤを描いたのであって、新約聖書の洗礼の場面で登場するヨハネを描く事は絶対にないので、そのような【図像】をアンブロジーオが描き加えることをレオナルドが許す筈がないのだ。何故なら、レオナルドはまだ存命中なのだから。

時代は下り、レオナルドも世を去った17世紀に、名も知れぬ画家が、恐らく《聖母無原罪御宿り信心会》の関係者の依頼で、向かって左の預言者に【十

字の杖と革衣】を描き込んだとされる。ルーブル版の影響だろうか。経緯は不明だ。これを【第三次ロンドン版】と呼ぶ。

しかし、またも【洗礼者ヨハネを登場させて洗礼の場面に改変された】ことで、聖書の場面とは真反対に、イエスが洗礼者ヨハネを洗礼するかのような異端な作品となったのだ。これではカトリック信徒は混乱するであろうし、当然この信心会から信徒の心は離反するだろう。

しかもレオナルドが生きていたら決して承服できない暴挙であるに違いない。

この作品がその後展示される事も無く保管され、18世紀にスコットランドの画商に買われ、現在のナショナル・ギャラリーに至ったという経緯なのだ。

結論は以上だ。現在のルーブル版、ロンドン版ともにカトリック信徒から見ると、聖書を知る者の立場からは【宗教画として素直に受け入れられない問題作】なのだ。

- |   |          |           |                                       |
|---|----------|-----------|---------------------------------------|
| 1 | 第一次ロンドン版 | 1483-1490 | レオナルドが描いた図像の全て無い作品                    |
|   |          | ↓         |                                       |
| 2 | ルーブル版    | 1503-1506 | 弟子アンブロジーオ達が描いた代替作品                    |
|   |          | ↓         |                                       |
| 3 | 第二次ロンドン版 | 1506-1508 | アンブロジーオが、裁判後に光輪を加筆した作品                |
|   |          | ↓         |                                       |
| 4 | 第三次ロンドン版 | 17世紀      | 名も知れぬ画家が、洗礼者ヨハネの図像である革衣と十字の杖を加筆修正した作品 |

